

令和3年度第2回白井市男女共同参画推進会議

- 1 開催日時 令和4年2月10日（木） 午後2時から午後3時10分まで
- 2 開催場所 白井市役所東庁舎3階 会議室302～304
- 3 出席者 北川慶子会長、市川温子委員、佐藤真弓委員、三輪祐子委員、塚原幸恵委員、柴沙智江委員、折原圭太委員、中村一治委員、冴瑪悠委員、稲田忍委員
- 4 欠席者 大野晋次委員、鈴木孝委員、今井幹代委員、新原幸子委員、中原恵子委員
- 5 事務局 市民活動支援課 松岡課長
市民活動支援係 中川主事
- 6 傍聴者 0名
- 7 議題 (1) 白井市男女平等推進行動計画 後期実施計画の進行管理について
- 8 議事 白井市附属機関条例第6条の規定により、会長が議長として議事を進行した。

○北川会長 これから令和3年度第2回白井市男女共同参画推進会議を始めたいと思います。皆様方、よろしくお願いいたします。今日は令和3年度の最後の審議会でございます、お足元の本当に悪い中、御参集いただき誠にありがとうございます。

今日、これから審議する内容は最後の詰めとなりますので、皆様方どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局のほうから、開始に当たりまして御説明をよろしくお願いいたします。

○事務局（事務局説明等）

○北川会長 どうもありがとうございました。

それでは、これから議事を進めていきたいと思います。

今日の議題は1題だけでございます。皆様方のお手元に配付してありますように、白井市男女平等推進行動計画後期実施計画の進行管理についてということで、皆様方に前もってお届けしてあります資料等々に関しまして、いろいろな御意見を頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

御意見を賜ります場合には、必ず手を挙げていただきたいなと思います。それから、オンラインで御出席のお二方の委員さん方も、御意見をくださいますようよろしくお願いいたします。

それでは、まず事務局から御説明いただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○事務局（事務局説明）

○北川会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいま御説明いただきましたので、これから皆様方の御意見を頂戴したいと思います。どなたからでもよろしいですから、挙手の上御意見いただけますでしょうか。

どうぞ、●●委員さん。

○委員 ●●です。前回、年度別計画のところ、書いてあるのは全部同じだろうという意見がすごくあったので、それを基に、当該年度のところは、実施かそうではないかと簡単にまとめてあって、すごく良い形になっているのと。評価とかの区分と理由とか、あと、課題と改善内容とかがすごく見

やすく分かりやすい形になっているのではないかと思って、とても頑張ってくださいただなのだなというのを感じる改善案になっていると思うので、ありがたいなと思いました。

○北川会長 どうもありがとうございました。本当に今、●●委員さんからおっしゃっていただきましたように、こうするとこれまでのものから、本当に新しく作ってくださって、一目瞭然で、どれを見ても簡単に分かるようになりましたので、本当にありがたいと思います。それから、このように出来上がったものを見ると、いいなと思いますけれども、ここまでお作りになった事務局、本当に大変だったと思います。改めてお礼を申し上げたいと思います。

ほかに御意見はいかがでございますか。

オンラインで御参加のお二方、御意見いかがでございますか。

○委員 ●●でございます。新しい評価というか計画進行管理票を作成していただきまして、とても分かりやすくなったと思います。ありがとうございました。

評価の区分のところ「A、B、C、D、Z」になっているのですけれども、これが例えばコロナによる本当に不可抗力というか、どうしようもなく実施できなかったものかというのと、それから、やりたかったけれども、どうしてもいろいろな都合でできなかったという場合の評価をこのローマ字だけだと分からないようになってきていると思います。そこのところを分ける必要はないのかなというのを感じましたが、いかがでしょうか。

○北川会長 事務局どうでしょうか。どういうふうにお考えになりましたでしょうか。

あるいは、今はコロナでこういう状況でございますけれども、この進行管理は令和7年までですので、その辺のところの見通しですとかもあるだろうと思いますが、その辺どうでしょうか。評価のところを理由を書いてくだされば、それは分かることではございますけれども。

○事務局 今、●●先生から御指摘いただきましたが、まずは、理由をしっかりと書くことによって、委員の皆様にも、そういうことだったらしょうがないとか、その理由はちょっと違うんじゃないかとかというようなことの御議論をしていただくために、ここはしっかり理由づけをとということで、評価が「B」以外のものは書いていただくようにいたしました。

コロナの場合、これは明確にコロナが理由にできなかったということを書いてお示しできれば、そこは理由がはっきりとするので、あえて分けずに、コロナが理由でできなかったということを書いていただくことによって、皆さんには報告できるのかなと思い、分けませんでした。

○北川会長 ありがとうございました。

●●委員さん、どうでしょうか。これでよろしいでしょうか。

○委員 はい。ありがとうございます。

○北川会長 本当によく、ここにしっかりと理由を書いてくださるということで、さらに明確になると思いますので、本当にこういうような欄を設けてくださってありがとうございます。

それでは、ほかにいかがでございますか。どんなことでも結構でございます。感想でも結構でございます。

どうぞ、お願いいたします。

○委員 ews。今後の方針という欄のところ、私はとても良かったなと思っています。書き込んでいただく方も、何が課題かというのを改めて感じながら、やったことを反省し次年度につなげていくという意味で、改善内容を考えていただければと思います。

毎年毎年、さらに良くなってとか、ここを書くことにより、頭の中をまとめるとか、事業内容を検討することになって、毎年毎年ここが反省材料となり、次年度にもっと、さらに良い結果が出られるように考えられていくのではないかなと思います。

○北川会長 それに対して事務局はどうですか。

○事務局 今、御指摘があった部分は、事務局もここを大きな狙いとしております。

課題等というような曖昧な表現ですと、職員が明確に意識できないというところがあります。課題と改善内容ということを対比させて欄を分けることによって、何が課題として残ったのか、残ったことに対して、どうしていけばいいのかということセットで考える。それが進行管理の本来のあるべき姿だというふうに思いましたので、明確に左右に分けさせていただきました。

○北川会長 本当にどうもありがとうございました。

ほかにかがでございませうか。

本当にいい評価票を作ってくださったということに終始すると思ひますが、何か問題点ですとか、お伝えになっておきたいことというのはどうでございませうか。

我々がここで携わって作ったものが、この評価票ということにもなりますので、私たちに責任があったと。ですから、そういったような意味合いをもつても、御意見を頂ければありがたいなというふうに思ひます。いかがでございませうか。

どうぞ。

○委員 質問なのですが、それぞれの事業に担当課が決まっていますけれども、この成果というのは、例えば評価が高かった、達成度が高かった課と、あるいは達成があまりできなかった課ということに関して、それぞれ課に対して、恩賞とか賞罰とか、市として何か担当課に対しての評価上の位置づけというものは出てくるものなのですか。それとも出ないものなのですか。参考までにお聞きしたいです。

要するに、何もやらなかった課と頑張った課は、特に市役所の中では別に問題ないのかという話です。

○北川会長 どうでせうか。事務局、いかがでせうか。

○事務局 御質問ありがとうございます。お答えさせていただきます。

課を単位ということで評価をするということはないかとは思ひのですが、実際この事業、取組状況上がってきて、あまりにも内容的に、進行上実施できていない部分が多いところというのは、こちらの会議のほうでも見ていただいて御意見頂きますし、庁内の管理職を中心とした組織がございませうので、そちらの会議でも、進行管理の結果については審議をいただきます。また、事務局の意見もまとめて担当課にフィードバックというのはしていきます。そのような形で、実際にうまく実施できなかった課についても、改善を取り組めるようにしていきたいと思ひております。

○北川会長 よろしくお願いいたします。

○事務局 担当課、頑張った、あるいは成果を上げた課に対しての何かプラスということはないのですけれども、先ほど●●からありました庁内の担当課長が集まる会議がございます。そこで進行管理結果をしっかりと報告をいたしますので、それぞれの課長がそれぞれの課の進行管理の状況はもちろんのこと、他課の分もそこで目にしますので、それぞれの課がどうであったかなということは、それぞれの担当課長がそこで把握をしていくということになります。

○北川会長 ありがとうございます。

ほかにはどうでございましょうか。これが答えでしょうか。

それでは、今日は、皆様方のこれまでの成果が出たということで、早く進行させていただけたのかと思います。

それでは、冒頭に申し上げましたように、今回の会議で私たちの任期が終了するというところでございますので、今日、御出席の皆様方、お一言ずつでも結構でございますので、お言葉頂けますでしょうか。

それでは、副会長から、●●さん、お願いいたします。

○委員 世の中、私たちが思っている以上の苦勞ですとか、それこそ若い人たちの生活ぶりを見てみますと、男の人も女の人も共に働いて、しかも子育ても協力しながらしている姿を私も自分の子供たちを見ながら感じております。

それに対して、助ける場所、例えば保育園など、私は自分の孫が近くにおりますので手助けすることもできますが、そうでない本当の孤立している家庭には、そういう手助けができる、ちょっと頼める所があるというのがすごく安心でき、子育てをする上で、とても安心ができると感じております。

そんな中で、やはり遅れていると言ったら失礼なのかも分かりませんが、私も含めてなのですが、娘と息子としまして、娘は、子育て一生懸命しているのはよく分かるのですけれども、息子が子育てのほうに非常に協力的にやっているところを見ると、あなた、仕事のほう大丈夫というふうに言いたくなってしまったりすることがあります。

昔からの男は仕事で女は家庭というような自分たちが過ごしてきた状況と今の状況とのギャップとこのをどこで調整するかといたら、やはり私たち世代からじゃないかというふうに思っております。

なので、自分たちが考えを切り替えないと、子供たちの世代、それより若い世代の人たちが過ごしていくことになるのだなということを思いながら、私も長いこと男女共同参画をやっているのですが、自分の中でこういうことを知っている動いてはいるながら、自分の心の中にそういう考えが潜んでいることにすごく反省をしました。子供たちにはそういうことは見せないようにしようという意識があるのを発見したりしながら日々を過ごしています。

白井市のほうでも、保育園も自分の近くじゃない所は連れて行っていただけるようなことができたりとか、学童保育も私立の学童保育ができたりとか、子供たちが、働いている親たちがいなくても守ってもらえるような場所、それが公民館であったりもしますし、いろいろな所で、私たち世代以上の

大人が地域にもうちょっと還元して、自分の子供じゃなくても、地域の子供として関われる、関わろうとする大人が、もうちょっと増えてくるといいなと思っています。

団塊の世代の人たちがたくさんいるはずなのですが、なかなか市民活動にしてもそうですが、地域の人たちとつながって、自分のことというよりも地域の力となれるような、そういう発想をもって、協力というのかな、横のつながりを自分たちもつくり、地域ももうちょっと発展できるような人間関係ができるといいなと、この男女共同参画とは少し離れているかも分かりませんが、そういう観点でも進んでいくのではないかなというふうに思っています。

○北川会長 ありがとうございます。

次、お願いいたします。

○委員 白井工業団地協議会の●●と申します。今回はこのような会議に出させていただきます、ありがとうございます。ただ、あまりよく分からないことが多くて、意見を述べることはできなかったのですが、この男女共同参画に参加できて、私もDVとかハラスメントに興味があるというか、困ったこともあったので、今後もこのような形で勉強できたらなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○委員 私は、大学時代の専攻がジェンダーとかフェミニズム論というところから入って、それがとても自分の中にはまったというのもあって、すごく勉強が楽しく感じていました。そのときまで、そんなに男女で差があるという意識はなく生活できていたのです。例えば、男だから女だからと言われてきたことも、当たり前として受け止めてきていましたし、初めてそういった考え方に触れて、今までのってちょっと違うのだということを知って、すごく勉強になりました。

ですので、できる限り子供には、男だから女だからというのはないように育てていきたいと思って育ててきたつもりなのですが、やはりどこかで絶対に出ちゃうのです。どうしても性別役割分業ではないのですが、ちょっとしたことで。

まだまだ私の世代、40代の世代も、その凝り固まった観念というのはすごく強くて、いろいろところで話していても、そういう話がすぐ出てきます。やっとな今の20代の子が、大分そういった観点からは離れてきているのかなというのは、すごく感じるようになってきているので、これからは10代とか、さらにその子供世代は、もっとそういう凝り固まった考え方から抜けていけるといいなと思っております。

実際、本当に、うちの娘が行っている小学校の校長先生なんかも女性の方ですし、大分、小学校の場では、女性の先生がすごく活躍してらっしゃるのをたくさん見ます。多分子供たちも、そういうのを見ていることで、例えば女の子も、私も頑張れば上に行けるのだという思いをすごく持てると思います。本当にそういった方がたくさん増えてくれているということは、まず大事なのかなと、本当にそういう方にさらに加わっていただいて、私もできる限り、いろいろところで頑張れたらいいなと思います。

○委員 民間というか企業にいて、委員も出させていただきます。まずは、先ほど皆さんから、このまとめに対する評価の話がありまして、私も全く同意見でございます、本当に分かりやすく変わ

ったということにつきましては、本当に事務局の方中心に御苦労さまでした。ありがとうございました。

この会議に参加させていただきまして大変勉強になりました。男女平等ということで、今いろいろな観点のことがあって。やらなきゃならないこと、あるいはやるべきこと、やれることはたくさんあるのだなということが分かりました。

普通の会社に、私、勤めていると、いわゆる広いことで多様性を受容するというのは、多分これからやらないと、やったほうがいいのかというレベルではなくて、やらないと多分、競争に勝てなくなるのではないかなというふうに思っているの、今回ここでいろいろ勉強させていただいたことは、仕事の中でも何か活用できたらいいかなというふうに思っております。どうも本当にありがとうございました。

○委員 ●●です。2年間ありがとうございました。私も、人権に関することには意識を向けてきました。勤めていたときには学校にいたものですから、今は退職して農家のおじさんなのですけれども、時代の流れというか、さっき若い人の意識が変わりつつあるというふうにおっしゃった委員さんがいましたが、私も、そういうふうに思いました。

その一番の発信源が学校でして、私が子供の頃は、学級委員長は男子、女の子は副委員長という時代の中で過ごしてきました。自分が教員として勤めるようになってからは、もう生徒会長も女の子が堂々と務めているという時代になっていました。

それから、家庭科も男女共修という状況の中で、やはり意識は変わってきたのではないかなというふうに思うのです。だけれども、変わっていないのが一般社会かと思っております。

実は、私は時代劇が好きで、夕方いつも見ているのですけれども、どうも旦那様と奥様が座られると、旦那様が正面にばーんと正面に座って、奥様がちょっと脇に座っているような絵が必ず出てきます。それが日本の美意識なのかそういうふうな意識が、ごく自然な状況として社会の中で形成され、いや応なしに行われているのではないかと思うのです。それをまるっきり頭から否定するのではないのですけれども、でも、やはり変わらなければいけないこともあると思います。そして行政の方が、この会議に出させていただいて、こんなに頑張っているのだなということを実は知ることができました。

こういう行動計画が何となくあるということは知っていたのですけれども、行政の方がここまで細かく一つ一つの行事等に対して心を砕いて、活発に円滑に進めるようにということで、さっき窓口というふうに、逃げ込む場所というふうにおっしゃった方もいたのですけれども、努力してくださっているということを改めて知ることができました。非常に無知であった自分がとても勉強させていただいたなと感じております。

これから、この2年間で教えていただいたものを例えば農家のほかのおじさん方と話をするときでも、こんなものがあるのだよということを自分が、お茶飲み話でも広げていくことができれば、無力な自分なのですが、一助になるのではないかなというふうに考えております。

本当に、白井市の市役所の皆さんの努力に敬意を表しつつ、勉強させてもらって、これからさらに

いい形につながっていくことを願って自分の感想としたいと思います。ありがとうございました。○委員 ごめんなさい、立派なことは何も言えません。でも、今日のこの管理票を、新しく作ったやつを見させていただいて、本当に明確に明瞭に分かりやすいものになったということで、実施というのを、女、男、ほかとかというのをつけていただいたりして。ちょっとずつでも前に進んでいる白井市というのを感じています。

前期の時もちょっとバトルみたいになったのですけれども、男女平等推進行動計画とかって、男女平等参画とかというはあるのですけれども、最終的に行き着くところは、男女という枠、区分を撤廃、廃止して、人と人、人間と人間としてということいろいろな計画とかを立てていけたら、すごく希望が持てていいのかな、誰もこぼれることがないものになるのではないかなと、いまだに思っています。

これから先、諦めずに、最終的に撤廃できるように、自分のやれることを私もやっていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

○委員 私は正直申しまして、この会議に出るまでは、市の仕事というか、こういった仕事は国が大きな方針を決めて、それに基づいて各自治体が淡々と、ただ単にアリバイ的にと言うと言い方悪いのですけれども、ただ単に、事務的に進めるものだと思っていたのですが、こういう形で計画の施策をつくるに当たっても、こういう形で積み上げて、そして立案し、実行するに当たって、その後もこういった検証を受けるとは思っていませんでしたので、今回この会議に出させていただきますと、大変勉強になりました。

それと同時に、私が思った以上に、本当に市役所の方たち、自治体の方たちが、逆に末端でかなり、国が大きく定めた方針を実行すべく頑張っていらっしゃるなということで、大変敬服いたしました。

また、この会議に参加したこと、有意義でございました。どうもありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

それでは、対面で御出席の委員さんの方々には、一言ずつ頂きましたので、オンラインの●●委員さん、それから●●委員さんにも一言ずつお願いできますでしょうか。いかがでしょうか。

○委員 ●●でございます。今まで委員の皆様のお話を伺いながら、本当に私自身も勉強させていただくことばかりで、白井市の市民の皆様のために、これほど委員の皆様がいろいろな考えを出し合いながら、男女平等というか、最終的には、さっき委員さんおっしゃいましたけれども、男女撤廃のところまで行くといいなというふうに、私もすごく勉強させていただいております。

今、私は大学にいますのですけれども、ヤングケアラーに関する研究をしまして、今すごく問題になっております。どうしてもケアというと、介護とか育児とか、あと医療的な何かケアするとか、そういうところに限定的に考えがちなのですけれども、ケアという言葉の意味というのは、弱い人間同士がお互いを支え合うという人間関係の一つがケアだと思います。ですので、一人一人の人間がみんな弱い存在なのだということを自覚して、そういう弱い部分を支え合っていくという、そういう社会ができればいいなというふうに思っています。

いろいろな問題、そのケアラーの問題もそうですし、ジェンダーの問題もそうなのですけれども、

そういうマイノリティーの方々をかわいそうだなとか、そういうふうに見ていくことは違うと思っております。やはりどの問題も、人間なので、自分にもそういう部分はあるなという感じで、自分ごととして捉えていくという姿勢がすごく大事だなと思っています。

そのような、いろいろな苦しみとか問題を少しでも一人一人が生きやすくするために、この会議はすごく貢献できるのではないかというふうに、すごく大事だなと感じました。

この会議というか、行政の方々をお願いしたいのは、実際にこの男女平等に向けての取組というのは、各部署のほうでされていくというお話だったと思うのですが、たくさんの部署が、なかなか一つの志を持って進んでいくというのが、実際的には難しいのではないかと考えていますので、ぜひこれをする中で、何がどういうふうになるのかなということを、現実の生活に沿うようなものを考えてほしい、そして、それを実行してほしい、1人でも2人でも苦しんでいる人、困っている人が救われるような実際的な何か取組を考えていただき、進められたらいいかなと思います。

たくさんの部署が関わっていますので、その志を一つにするというのはなかなか難しく、もしかしたら講座を開いておけばいいかなとか、ちょっとしたイベントを開いておけばいいかな、評価が上がるかな、みたいな感じで思っているようでは、多分、本当の共生社会はできないと思います。希望の話ばかりですけれども、やはり実際的にどういう方向に進みたいのか、これをやることでどういうふうになんか救われていくのかということも考えた生活に密着したような取組をやっていただけるように、ぜひ声かけと申しますか、そういうふうな方向に進んでいってほしいなと思いました。ありがとうございました。

○会長 皆様方、どうもありがとうございました。

私から一言、皆様方にもお礼と、それから事務局のほうにも御礼を申し上げます。

こういうふうに、それぞれのお立場からこの会議に参加していただきまして、そして、この2年間のそれぞれの総括をしていただきました。本当にいい言葉を頂きました。このような御意見が頂ける、御感想が頂けるというのは、今だからだと思います。

私は、この男女共同参画基本法ができた少し前から、他府県にて、男女共同参画審議会にずっと関わってまいりました。最初のときから、ちょうど20年以上たちましたけれども、当時とは雲泥の差でございます。

それから、その20年前は、私、大学は実は工学部でして、機械工学だったのですけれども、20年間、1人も機械科に入る学生は、女性でいなかったというような時期を過ごしました。それこそ、トイレすら女子学生のためにはない、更衣室もないというようなことばかりで、女性は来るなというような時代でございました。

それから、初めて留学しましたときに、アメリカに行って、こんな世界があるのかと思いました。それでずっと大学でも、女性論とか、ジェンダー論とかというふうに名称は変わりましたが、それをずっと教えてきておりまして、本当に少し手応えが出てきたなというような時代になったと思います。

ですが、今のままでいいというわけではもちろんありませんで、皆様方がおっしゃいましたような

それぞれの課題もたくさんあります。誰もが不都合を感じないような社会になる、これは、こういうふうなプランをつくるということは大前提なのですが、それと同時に、それぞれが自分たちで考えていかなきゃいけない、それでないと絶対に、それこそ、ここに言いますように男女平等、本当の意味での平等ありませんし、男女だけではなくて、それに不都合を感じている人たちもいますし、これまでは男女としか考えてこなかったことを、そうではなくてということに、やっと日本がシフトしてくるようになりました。

誰もが自分の力で生きていく、それをサポートする人がいる、それは行政的にも、個人でも行っていくことが普通にできるようにするというのが目指す方向だと思いますし、本当に2年間の会議ではございますけれども、皆様方にとっても努力いただきまして、いい進行管理の評価票ができたと思います。

ただ、この白井市の計画は10年間でございます。私たちはちょうどその半分のとき、折り返し点からの任でございました。それで、これまでのことを見直し、そしてその評価をしていく、それもさらに明確な形で分かるような評価票を作っていくということとなると、やはり私たちが作ったというような自負心を持って私たちは行きたいと思っておりますし、それと同時に、これから5年間をしっかりと見ていく責任はあるかと思っております。

ですから、そういったことも考えながら今後も見続けていきますし、それから、さらにまた5年後から続く計画もできてくるだろうと思っております。それに携われる方々も、きっとこの委員の皆さん方の中にはいらっしゃると思っておりますので、この経験を次々に生かしていただきたいと思います。

また、私たちは、評価についての責任もあると同時に、先ほど●●委員・●●委員からもおっしゃっていただきましたけれども、いろいろなところに広報していくというような責任が私達にもあるだろうと思っております。

皆様方、2年間ありがとうございました。これからも見守ってまいりたいと思っております。本当にどうもありがとうございました。

○事務局（連絡事項等）

○会長 これでは令和3年度第2回白井市男女共同参画推進会議を終了させていただきたいと思っております。2年間どうもありがとうございました。

○事務局 ありがとうございました。